

ひろしま NUCLEAR FORECAST 2026

核リスクの早期警戒と政策提言



将来を見通し、行動につなげる広島発のプラットフォーム

「ひろしま Nuclear Forecast」は、国際的な専門家の知見、体系的なリスク分析、政策提言を結びつける、将来志向の取り組みです。今後 12 カ月を見据え、核リスクが高まりえる領域とその顕在化の経路を示し、長期的目標である核軍縮の推進にもつながる実践的なリスク低減策を提案します。

55 名の専門家回答者

17 カ国

12 カ月の予測期間

1 ひろしま Nuclear Forecast

本プロジェクトは、世界各国の専門家を対象としたアンケート調査、リスクの発生可能性、国際社会への影響、直近の変化、一般的なリスクへの認識を分析する共通の枠組みです。

回答者は、ロシア・ウクライナ、朝鮮半島、イラン／中東、米中間の緊張、インド・パキスタンといった地域的な懸念から、分野横断的な課題まで、10 のリスクを検討した。後者には、NPT、核実験、民生用原子力施設への攻撃をめぐるルールと規範の弱体化、新興技術と偶発的エスカレーションの相互作用、激化する核軍拡競争が含まれる。議論では、これらのリスクが相互に結び付き、互いを増幅し得ることが強調された。へいわ創造機構ひろしま（HOPe）、広島県、日本国際問題研究所（JIIA）軍縮・科学技術センター（CDAST）が主導し、広島市の歴史的・道義的な視点を、各国政府、国際機関、研究者、市民社会が活用できる実践的資料へとつなげる。

2 ひろしまラウンドテーブルとの連携

ひろしまラウンドテーブルは 2026 年 9 月 2～3 日に開催され、「ひろしま Nuclear Forecast」を議論の基礎資料として検討した。核兵器使用がもたらす人道上的結末を経験した都市・広島から、その経験を、通常戦争、新興技術、説明責任ある統治の弱体化、被害を受けるコミュニティが負う人道上的影響と、ますます複雑に絡み合う今日の核のリスクへ結び付けることを目指した。核兵器禁止条約（TPNW）は、こうした影響と被害を受けたコミュニティのニーズに対する国際的関心を高めた一方、核抑止と条約自体をめぐる国家間の見解はなお異なる。ラウンドテーブルは、そうした相違があっても行動が可能となる領域に焦点を当てた。広島からのメッセージは、核の惨禍の記憶にとどまらず、核兵器使用につながり得るリスクに政府と社会がどう対応するかを導くべきである。参加者は以下の提言を議論し、リスクを低減して核兵器のない世界への確かな基盤を築くための実践的措置を示した。

横断的原則

1 エスカレーションの管理に先立ち、武力紛争を防止する

2 核兵器の不使用を基本原則として再確認する

3 リスクと責任を可視化する

4 不拡散体制の柱を堅持する

5 より広範な連関を認識する

政策上の優先事項

1 核兵器の使用とエスカレーションの防止

- 核兵器による威嚇と、限定的使用を含むあらゆる核兵器の使用の常態化を拒む
- とりわけ AI の利用が拡大する中、核兵器に関する意思決定に対する実効的な人間のコントロールを維持する
- 核指揮統制及び早期警戒への干渉を控える
- 危機管理チャンネルを維持する
- 地域的なリスク低減措置を重視する

2 ルール・規範・制度の堅持

- 民生用原子力施設への攻撃を禁ずる規範を強化する
- 国境を越える放射線緊急事態に備える
- 核実験の再開を防止する
- 失われた検証体制を再構築する
- 核関連供給と機微技術移転に関する責任ある基準を維持する
- 多国間の軍備管理・軍縮イニシアティブを支援する

3 歯止めなき核競争の防止

- 核戦力のさらなる拡大を停止する
- 戦略的軍備管理の恒久的な空白を防ぐ
- N5 の戦略対話とリスク低減を強化する
- 軍縮をめぐる基本合意を再構築する